

## 第34回 「健康なまちづくり」シンポジウム

平成29年8月24日  
東京都 日本教育会館



第34回「健康なまちづくり」シンポジウムが、国民健康保険中央会の主催で、平成29年8月24日（木）、東京都の日本教育会館「一ツ橋ホール」で開催された。奈良県からは、都市国保協議会5名、町村国保協議会14名、連合会事務局4名の計25名が参加した。

### ◇開会の挨拶

はじめに、国民健康保険中央会の原理事長より「健康なまちづくり」シンポジウム開催にあたり、主催者を代表しての挨拶が行われた。

今回のテーマを「データヘルスの実践と健康なまちづくり・健康づくり」とし、来年4月施行の国保制度改革により、都道府県が国保の事業運営主体となり、中心的な役割を担うこととなるが、地域住民の「健康づくり」については、住民に最も身近な市町村が担うこととなり、特定健康診査、特定保健指導、糖尿病の重症化予防などの取組など保健事業に関わるものが重視されている。保健事業関係強化支援の一つに、データヘルス計画の実施があり、データヘルス計画策定は平成26年度より進められてきた。

平成30年度からの第2期データヘルス計画の策定に向けて、厚生労働省ではガイドラインの見直し・検討が行われており、

今年7月に国民の健康確保のため、ビッグデータ活用推進に関するデータヘルス改革推進計画を策定し発表した。健康、医療介護のビッグデータ活用に向け様々な支援を行うことが、保険者を支援する立場にあり、膨大な保健医療データを取扱う国保連合会、国保中央会の役割とされる。データを分析・活用しこれからの健康づくりについての活かし方、保険者としてどう関わっていくのが重要であることなどを説明され、シンポジウムが開会された。

### ◇来賓挨拶

次に来賓として厚生労働省保険局鳥井陽一国民健康保険課長が次のとおり挨拶された。



鳥井課長

国民皆保険のもと、誰もが安心して医療を受けることができる保険医療制度を現

在まで構築・運営を行ってきたが、急速な少子高齢化、社会経済情勢の衰退により、制度を取り巻く環境は大きく変化し、一昨年5月、持続可能な医療保険制度構築のため、医療保険制度改革法が成立し、現在その施行に向け、準備している状況である。施行を7か月後に控え、現在作業は本格化している。新制度では、公費による財政支援が不可欠であるとともに、都道府県が責任主体となり、財政運営に関わることとなり、これまでの国保運営とは大きく変化していくものと考えている。今後、市町村保険者は地域に根差した行政主体であることから、より一層保険者機能を強化していくことが必要不可欠とされる。

住民の健康づくりをすすめるため、特定健診等のデータを分析、活用により地域の課題・目標を明確にし、効果的な事業運営が求められる。

厚生労働省としても、「第2期データヘルス計画」の策定に向け、7月より「データヘルス計画のあり方検討会」を開催し、保険者向けに手引きの改訂を行っている。また、平成28年度から「保険者努力支援制度」をきっかけとして、各市町村での取組をさらにすすめていただきたいと考えている。さらに国保中央会や各国保連合会の皆様には、「保健事業支援・評価委員会」に継続的な助言・支援をお

願いする。厚生労働省としても、それぞれの地域特性を踏まえた創意工夫による「健康まちづくり」の支援をすすめていかなければならない。本日は第2次データヘルス計画策定に向けて「健康なまちづくり」に積極的に取り組んでおられる市町村からの事例紹介がされると聞いている。紹介された事例を参考に、今後の「健康なまちづくり」に広く活かしていただきたいと述べられた。

続いて、来賓として厚生労働省健康局加藤典子健康課保健指導室長が次のとおり挨拶された。



加藤室長

「健康なまちづくり」シンポジウムは昭和55年から開催され、国民の健康づくりの発展に大きく寄与されていることに敬

意を表する。

我が国の社会保障政策は、少子高齢化の急速な進行と生産年齢人口の減少、国・地方自治体の厳しい財政状況等により転換期を迎えている。健康問題についても、個人のレベルから地域のレベルまで様々な観点からの取組が、ますます必要となっている。

平成25年から始まった、「第2次健康日本21」では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を最大の目標とし、「重症化予防の重視、健康づくりに関心のない者への支援」をすすめている。地域づくりやまちづくりは、個人の健康づくりを支えていく環境整備として大切であり、生涯を通じ地域のあらゆる住民がそれぞれ役割を持つて支えあい、公的サービスと協働して助け合う仕組みの構築を期待する。

自治体では、それぞれ自治体ごとの課題を踏まえ、本日のシンポジウムをきっかけに、「健康なまちづくり」と言う目標に向け、部署横断的に取り組んでいただきたいと述べられた。

#### ◇シンポジウム

シンポジウムは講演とシンポジウムの2部構成で実施された。

【基調講演】

「データヘルス時代の健康なまちづくり」  
千葉大学予防医学センター

社会予防医学研究部門教授

近藤 克則 氏

・これまでは「健康な人をつくらう、健康な人を増やそう」としてきたが、ビッグデータを活用し分析すると「健康なまち」があるところに「健康な人が増えてくる」といった関係性が見えてきた。これまでの「健康な人づくり」から「健康なまちづくり」を目指し取り組んでいくことについて、今後の可能性、課題について講演が行われた。

【シンポジウム】

テーマ「データヘルスの実践」

「まちづくり・健康づくり」

コーディネーター

千葉大学予防医学センター

社会予防医学研究部門教授

近藤 克則 氏

1 パネリスト  
福島県伊達市長

仁志田 昇司 氏

「健幸都市を目指して」安心して子育てができ、安心して歳がとれるまち」

2 富山県新川厚生センター所長

大江 浩 氏

「地域包括ケア体制整備に向けた分析と市町村支援体制の構築」  
東京都品川区

3 国保医療年金課保健指導係

保健師 崎村 詩織 氏

「行政・医師会・地域協働で策定し、成果の最大化を目指す！しながらデータヘルス計画の取り組み」  
京都市長岡京市

4

健康福祉部健康医療推進室保健活動担当保健師長

中田 由紀 氏

「データを活かした健康づくり」  
「全世代への保健事業の展開」について」  
5 国保中央会調査役

鎌形 喜代実 氏

「データヘルスの推進」

以上5名のパネリストにより、それぞれの取組事例が紹介された。



基調講演の様様



シンポジウムの様様